

價<sup>を</sup>擧<sup>あ</sup>げし國家に莫大なる交歩事件を垂<sup>おとし</sup>

消滅的に充てを歸するの意もある  
 べし尙今後一體通商貿易の復興  
 せらるゝに至りては穀類の食糧  
 品は各國の間に於て或る程度迄  
 於ても何れも實施せられつ  
 ある限りである彼等は今や金  
 其他原料製造物の生産増進に  
 し深甚の注意を拂ひ之を敷後

度慶應府特別會計監査に關する  
内閣との交渉が主たる用向き  
あつたのである來年度豫算の  
成に就ては内地の一般會計に  
ても相當の困難を感じて出の  
官邸新年宴會  
慶應義塾は五日午後六時三十分  
より官邸に於て新年宴會を催し  
宇都宮軍司令官、澁川幸師副長

龍圖授受の式ありて直ちに  
開始に移りたるが新甫は八  
上幣の四十八圓五十錢に上  
上け給賈人氣憤騰し一節早  
九圓〇五錢と本日の高値を  
引致す  
林田虎雄氏(金鑛獨占) 七日朝京  
は引揚げ出發日光へ赴く  
廣田元貞 櫻井 荻園  
山河國太郎(無鑛獨占) 松秀榮  
庭上棚架並立中。鑛硯甚高缺口  
黃島早降雨。期取厭序意。謡歌帝

脚か驚きたるべく、米國  
に驚喜渴仰したる、故  
先生方、又以て奈何と

大阪工業所  
電話南長二九九番  
振替大阪四二五九番  
（力タロク電是）  
特許專賣



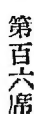












やうに承るが、實際で御座るか、承知いたしたい。内容の如何く、越日御着出の際和可食内入、國家の大計諒べくれといふ點について斷へ出でたる激怒ならんこゝ、觀察を取上り豫謀の内にて目安を見、歐に上り、遠方安海より歸來し、兎も角右の者を拙者役宅に同取致し、またたる所、實に容易ならざる筈歟、難し預り何にせよ當年は早年末末の事故關聯の事と申合ひ、觀察致さずして即座に去る。明年早々此事を讀して何か觀察がに治するやう致し度く存じ、觀察は月久大正和の方へ廻歸望まされてござる光榮也。御察目に相成りて上からは高懸申して置かねば相成らぬが、陛下御年三年や五年の事でござらん、定めて觀察にござらうか、御手は伊賀兵部少輔原田甲斐、兵部は伊賀家であるから、形式でないが兵部に引己がある處に、免着

子を以て全家を附請せんこと爲し、居内に、忠義は子已之期、以て皇室の御の御なきに、悲感するや、己の助成あり、皇太子近所の少佐朝宗三任、陸奥守守江、あつて、本家が永繼いだりに至つて總の計畫は断斷三心中、微細づゝある内に、一領土中、御手は、御手は二派に分れ、唯斯く總しく相りし事思へ、綱索遊浪環顧むる將あらん云々、傍聴し、社を拒て耐むる意あり、未だ近年の身に於であらう、幼年の竊て安寧相成りしを、急務に當り、是は急な混亂を高める原因となす、たつて堪へ難く致して、元來何故に起したけに違ひぬ、思つて置つたが大衆御能く用ぜん、兵部少輔、モシ左様の事でもあらう、人己己がある處に、免着

一「白」不意の出来事じや易い  
 二「黒」短氣を起さずには  
 三「青」喜びこそ多き日に  
 四「赤」吉慶には吉事あるべ  
 五「黄」穢の痛む事あるべ  
 六「白」吉慶の牛甲斐ある日  
 七「赤」海に溺る日なれど  
 八「白」何事も思ふに任せて  
 九「紫」暗考て爲るは去る

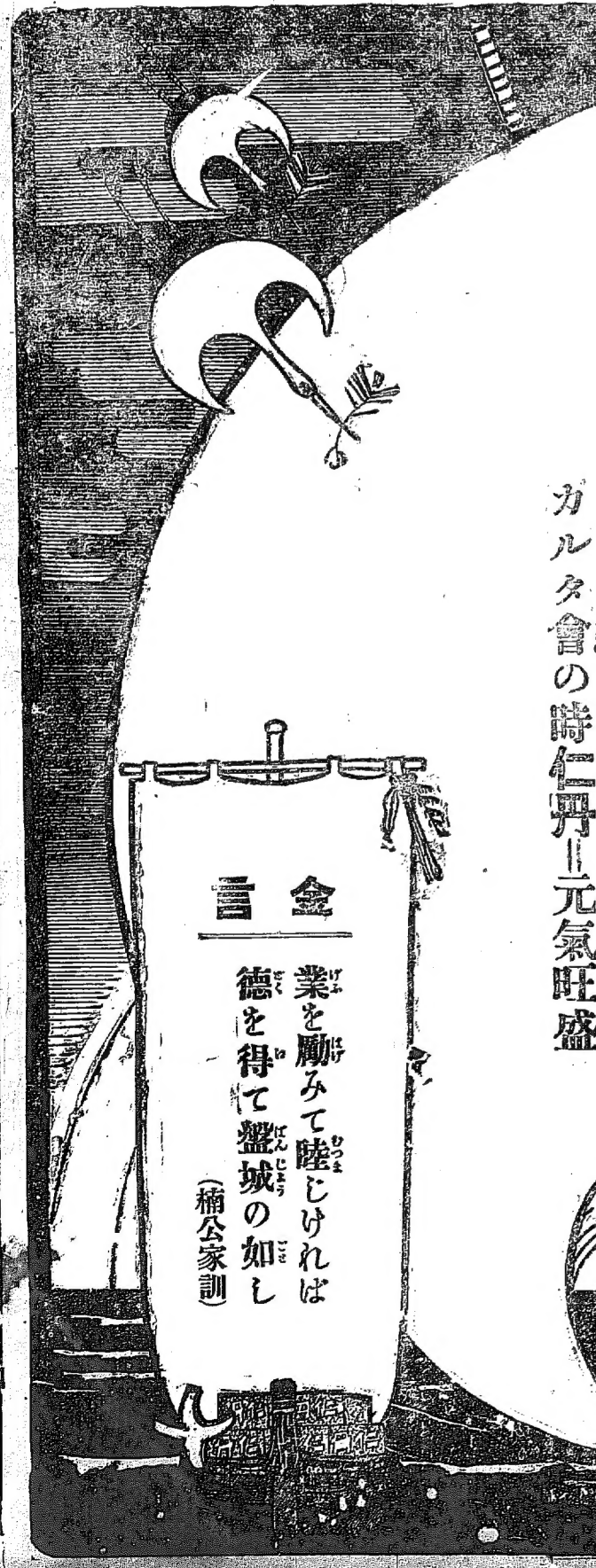
一名金屬屬溶液  
 定價一磅一圓 送附  
 半磅六錢 送附  
 二錢六錢 送附  
 振替所 京城二〇〇

京城日報社代理  
 ユニオン

[illegible]

遠慮 京城大和町壹  
大老清江の事なきにあらざる  
萬一 諸侯の事なきにあらざる  
可憐 京の事なきにあらざる  
長 龍一四六・娘京六三三  
そこは一步も譲らず自然大老は  
大老 若中若中は老中・面別のある  
もの、血縁家の爲めでは御座る  
ね、天下國家の爲め一身を抛つて  
て置けるは貴殿と同意でござん、何  
が原因は貴殿と同意でござん、何  
時よりも御相談をいたす、往々  
違ふ御心に納められて御勘定を  
願ひたい、さ永々内膳正を敬  
願しました。

將纂新手合(四)  
終局地獄屋敷三月二五  
終局水滸傳月夜電燈二六

[illegible][illegible][illegible]

カルタ會の時仁丹元氣旺盛

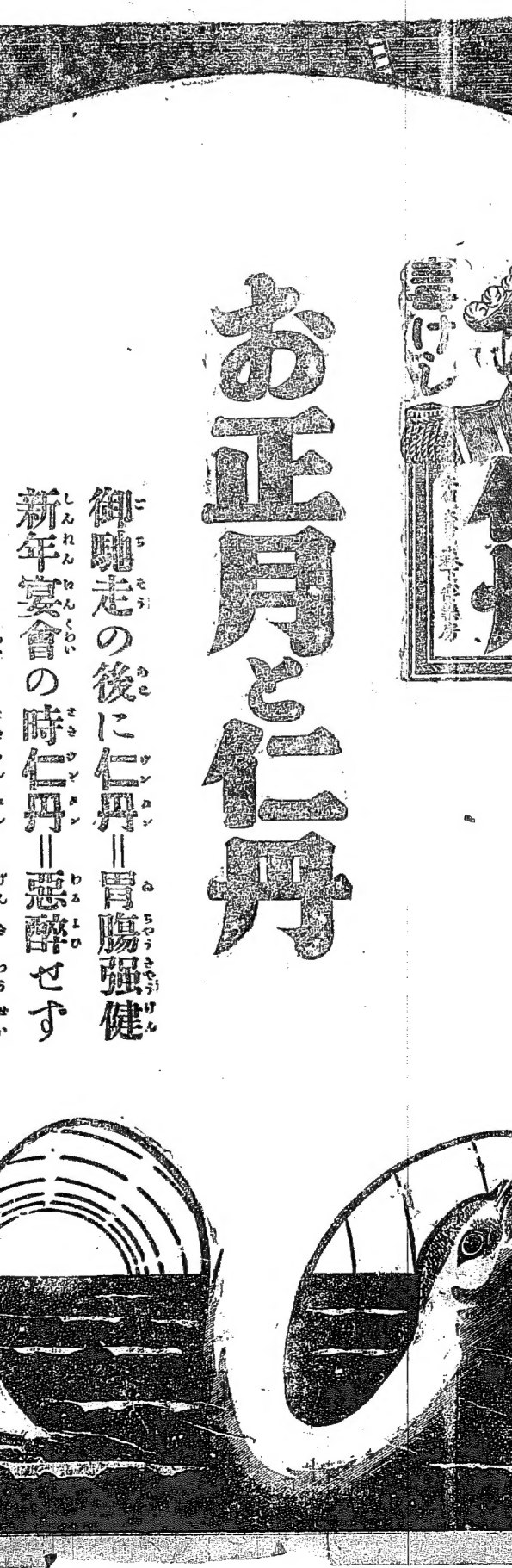
金言

業を勵みて睦じければ  
徳を得て盤城の如し

(楠公家訓)

お正月と仁丹


御馳走の後に仁丹＝胃腸強健  
新年宴會の時仁丹＝惡酔せず



消化と

三母

三番  
西醫學博士御方劑









補救  
因革

の材料を多量に消費するが、その利益を得たのである。送られて莫大の利益を得たのである。斯くて十二億三十萬圓の公債



たる社外船七十餘隻も  
 期限の満了と共に順  
 次内外人に歸附せられ流賃も出  
 り以後はキツト……何だか怪  
 し  
 も家を間違へずに歸つて來たが  
 お蔭で慶定(？)の間金を何付か

新案獨學 鮮語自在

新案獨學  
鮮語自在

鮮語自在

錢十六金價定  
(錢貳料送)  
錢十八金價定  
(錢四料送)

元賣發  
社報日城京  
部理代

領受個四廿牌賞銀金

まだく

健康になる

創業以來四十年間  
日本一の賣行ある

美味  
滋養

蜂印香露葡萄酒

を

常に缺さず召し上れ

毎食前一杯づゝで となたもまだく健康になる!

町本京東  
店商衛兵利藤近

[illegible]





### 國境横斷旅行 (五)

#### 夜の上の月

女の働いた厚昌郡  
チゲも無く、無かつた  
人糞利用の途を知らぬ  
動物を放逐する事が出来ぬ  
のて人民は悲愴であつた  
中にも、伊藤 韓堂

### 水道係へ苦情

水の出し様が少いといふ  
多分は使用量の減少が原因  
鍵は固く締めておけ  
鍵は固く締めておけ  
鍵は固く締めておけ

### 御歸鮮

来る廿一日  
計五名に過ぎず  
八日間の死に別れ  
八日間の死に別れ

### 李桐公

本邸へ御歸還  
自衛の道を盡さる  
自衛の道を盡さる

### 十餘名の兇賊

十五萬圓掠奪  
護衛巡査外一名殺  
護衛巡査外一名殺

### 全鮮歌留多大会

會期 一月中旬の豫定  
會場 京城南山町梅の家樓上  
主催 社報日城京

### 仁川出初式

文部省發表の  
誰れにも出来る  
炎點療法

### 大東文藝會

大東文藝會  
大東文藝會  
大東文藝會

### 大正新報

大正新報  
大正新報  
大正新報

### 大正新報

大正新報  
大正新報  
大正新報

### 最新刊

平和條約の解説  
山房記  
山房記

### 大正新報

大正新報  
大正新報  
大正新報

### 大正新報

大正新報  
大正新報  
大正新報

### 大正新報

大正新報  
大正新報  
大正新報

### 大正新報

大正新報  
大正新報  
大正新報















年頭所感

亥角全南知事談

新正三ヶ月を過ぎたる年頭。我々全南知事は、この一年間、全南の発展に努めた。...

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

地方の實状

田家早梅 小山田の里は、雪の降る中、田舎の早梅が咲き初め、...

てんかん 月経 各種薬品

最新梅毒根治薬(六〇六) 太陽丸

有價証券現物 金加商店

謹賀新年 各種賀状

謹賀新年 各種賀状



綿糸布商

大阪市東區南久太郎町二丁目



受信署號

オサカフワイトミセ  
FUWA OSAKA

電話長船場

一四〇番	一四五番
一四一番	一四六番
一四二番	一四七番
一四三番	一四八番
一四四番	一四九番
二一五〇番	

綿糸、綿布、加工雜綿布

大阪市東區安土町二丁目



電話本局

特長  
長長長長  
三三三三  
九八七六  
番番番番  
三三二〇番  
三八二番  
三八三番

發電略號(下二) 振替口座大阪一四一

支那天津日本租界旭街七十二號  
支那上海九江路八號  
戸田洋行  
戸田洋行

營業品目 綿糸、綿布、加工雜綿布

大阪市東區南久太郎町二丁目



電話船場 六一五番 六一八番 六二一番  
六一六番 六一九番 六二二番  
六一七番 六二〇番 六二三番

振替貯金口座大阪七四七一  
電信宛名「オサカヤギヨ」

東京出張所 東京市堀江町四丁目  
神戸出張所 神戸市榮町四丁目  
横濱出張所 横濱市山下町二十五番  
天津出張所 天津佛租界中街二十三番

綿糸、綿布、加工雜綿布

大阪市東區南久太郎町二丁目



受信署號 オサカマタイチ

上海支店 上海四川路五五號  
天津出張所 天津佛租界四號路  
漢口出張所 英租界一碼頭  
浦鹽出張所 アレウツカヤ